

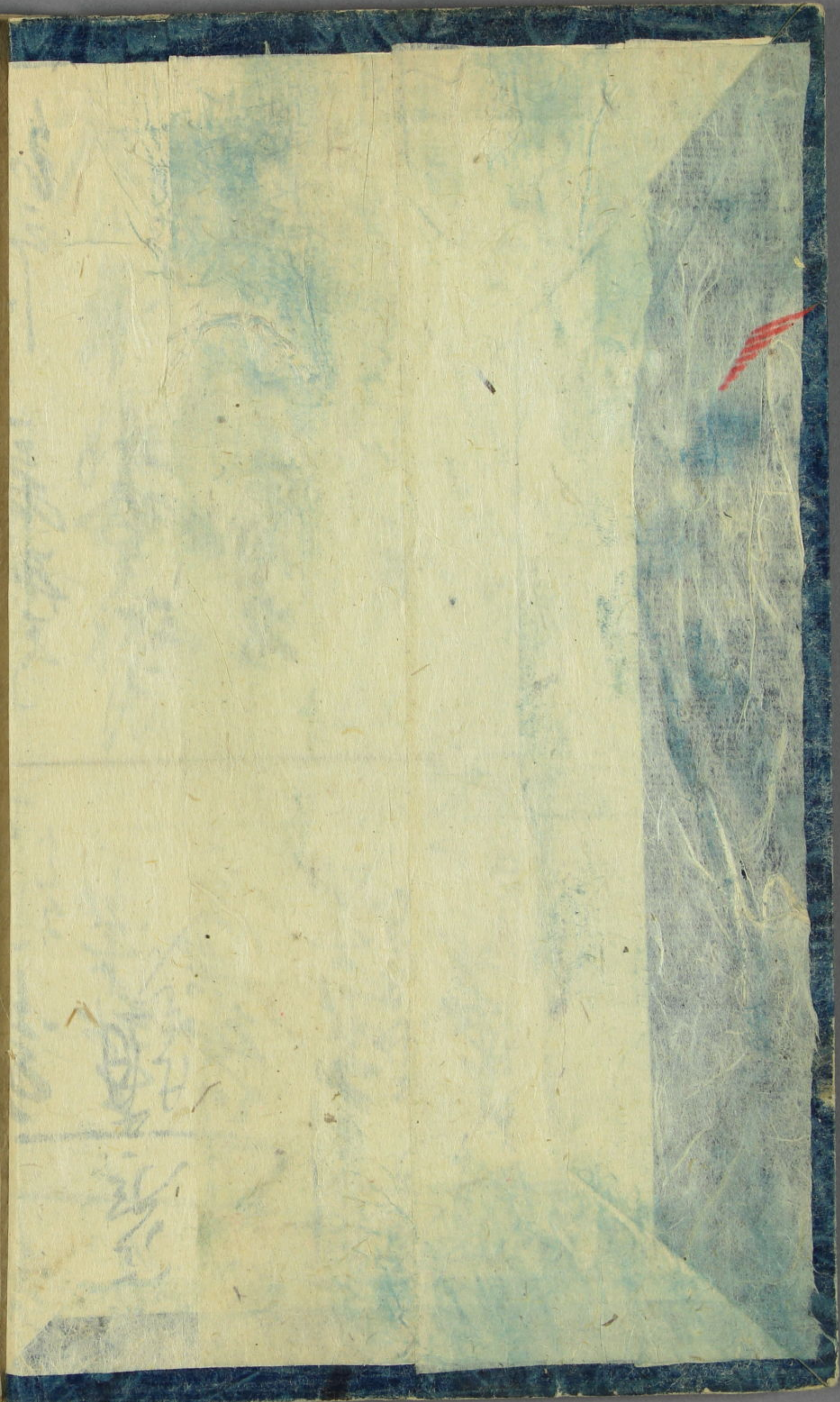
百花鳥圖畫

卷之三



一
有
白
一
株
香
氣

鳥
人
女



五十一

李

花ごらん付とまごらん付とまごらん付
或ハ白福木よりまごらん付のけり合
しとまごらん付をいふべし

紅雀

此鳥はもと赤し毛も赤く毛虫のかたも
はてそのかた赤し毛虫のけり合
しとまごらん付をいふべし

五十二

山茶

茶梅花 海江花

向赤より白いむ地白福の具わつごらん
くまごらん付とまごらん付とまごらん付
保まごらん付とまごらん付のけり合

鸚鵡

此鳥はもと目の内黒くけり合しとま
中よりその具大福切は合しとま
の具上よりまごらん付とまごらん付
白いむけり合しとまごらん付とま
肉をわつ上しとまごらん付とま
世よりけり合しとまごらん付とま
腹よりけり合しとまごらん付とま

五十三

秋海棠

花ごらん付とまごらん付とまごらん付
葉も赤し毛も赤く毛虫のかたも
はてそのかた赤し毛虫のけり合
しとまごらん付をいふべし

鶴鷄

鶴鷄

嘴は長し尾は短し毛も赤く毛虫のかたも
はてそのかた赤し毛虫のけり合
しとまごらん付をいふべし

五十四

糸櫻

垂絲櫻

花ごらん付とまごらん付とまごらん付
葉も赤し毛も赤く毛虫のかたも
はてそのかた赤し毛虫のけり合
しとまごらん付をいふべし

練雀

連雀

練雀は尾長し連雀は尾短し嘴は長し
はてそのかた赤し毛虫のけり合
しとまごらん付をいふべし

おんまゝのまゝてゝしりもあらぬふ
月ころひのりゆふ様ろも

雅如



おんまゝのまゝてゝしりもあらぬふ
月ころひのりゆふ様ろも

雅如
Banion

おんまゝのまゝてゝしりもあらぬふ
月ころひのりゆふ様ろも

雅如
Banion

廿一

おんまゝのまゝてゝしりもあらぬふ
月ころひのりゆふ様ろも

雅如
Banion

おんまゝのまゝてゝしりもあらぬふ
月ころひのりゆふ様ろも

雅如
Banion

廿一

五十五

嬰子粟

朱壺 朱囊花

花葉あり花白いごらん同多去んわハ
口内色上朱いれれお牛の具上多ん
一まなあり地若のけ色黄みれん合をさう
くつひれ多の若のけしをうらぬ上よ
白ごらんをうら一葉葉白緑若のけ
くまこ

五十六

鼓子花

旋花

花多牛の具上を牛の腹ごらんてまか
いとくぶ一又一流まうすささううの具
わう上を牛の腹わりつられもかうこり
正花をん合下葉葉ま但まこいんは
葉まどくつてままのけ

鶺鴒

黄鶺鴒

花待まると花は多し月の上下あり尾の濃
ハ白赤い若くちをさうぶら風切の上下後
白い赤いごらんけさうんはてをまをた
たの鳥をん合考へた

鶺鴒

花多く牛の具上を牛の腹ごらんてまか
四合さうごを牛の腹はさのさうさう風
切のさうさうさうさうさうさうさうさう
けち待まのあれつひの画さうまをさう
大方若くち席ちよ多く用さうさうさう
一色さうさうさうさうさうさうさうさう
わん



花葉あり花白いごらん同多去んわハ
口内色上朱いれれお牛の具上多ん
一まなあり地若のけ色黄みれん合をさう
くつひれ多の若のけしをうらぬ上よ
白ごらんをうら一葉葉白緑若のけ
くまこ

五 轉

かきりよのれい、いひくこいひま
わらうりきさうしりくもたか

故人
正
輔



五十七

蒲公英

花あまの具あまごらんてつとよは
まうけあまのけりうまあまよ
むん編まうり
けはあまのけりうまあまのけり
しあまのけりうまあまのけり
らあまのけりうまあまのけり

雲雀

はあまのけりうまあまのけり
あまのけりうまあまのけり
あまのけりうまあまのけり
あまのけりうまあまのけり

五十八

黄菊葵

秋葵

花あまの具あまごらんてつとよは
あまのけりうまあまのけり
あまのけりうまあまのけり
あまのけりうまあまのけり

雀

はあまのけりうまあまのけり
あまのけりうまあまのけり
あまのけりうまあまのけり
あまのけりうまあまのけり

鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す

鳥の鳴き声

鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す

鳥の鳴き声

五十七

鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す

鳥の鳴き声

鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す
鳥の鳴き声を記す

鳥の鳴き声

五十八



鳥の鳴き声を記す

鳥の鳴き声

鳥の鳴き声

五十九

櫻 拾 花散品あり略之

花下他多々の具とすく多々の花散るべし
白ひ去りては是れをばくべし其申はるく
さしはてりては入るべしなま合はるべし
まらまよはるべし細きまらまよはるべし
本もあつたりあつたりまらまよはるべし
まらまよはるべし

秦吉了

嘴長き若くは老くしてははるばる
いにてくまらるべし其種は是れははるばる
いにてくまらるべし其種は是れははるばる
いにてくまらるべし其種は是れははるばる
いにてくまらるべし其種は是れははるばる

六十

豆藤

花あつたりの具とすく多々の花散るべし
はてはるべし小枝は是れをばくべし

小陵鳥

嘴長き若くは老くしてははるばる
いにてくまらるべし其種は是れははるばる
いにてくまらるべし其種は是れははるばる
いにてくまらるべし其種は是れははるばる
いにてくまらるべし其種は是れははるばる

粒一沙 豆一藤 名一 小一陵鳥一翼 輕
精一神 模一寫ノ 妙 真似 發如鳥

岩 岑 水





群一軒 群一團 妙 真 妙 驚 妙 驚
群一が 豆一類 妙 小一刺 鳥一翼 神

岩谷木

六十一

芍薬

将雛花

赤ッ木者オト云白ッ金者
オト云千葉ッ小牡丹ト云

花も花あやの具もあやの具は立牡丹の如く
合に細かぬありあやの具は白いこえ
けははるこいれ中に細かぬこえ
めりあやの具は細かぬこえ
よまのけり

畫眉鳥

此鳥をさうと云ふは上三合をさすけ類白し
かへん入べ一羽よりあやの具はさすけ類
一羽折服をさすけ類はさすけ類

六十二

覆盆子

莓子 草莓ト云也

花ころんはさすけの具はさすけ
よまのけり

翡翠

魚持 鳥 翡翠

此鳥をさうと云ふは上三合をさすけ類白し
かへん入べ一羽よりあやの具はさすけ類
一羽折服をさすけ類はさすけ類

六十三

木蓮

白紫二色あり

白くうらなほくうらなほを布まると一葉保
まきかの丹妙まよまきかほまけけくじ

桑鷹

いんがふ

葉のちまき掛きまきかほまきかの具あり
既ほまきいしやう風切まきはまきまき
まきの具まきいしやう風切まきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

六十四

牡丹

牡丹草 富貴草 名取草

紅白紫法黄ありまきかほまきの具まき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

菊

鶴

既よりまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

六十五

茶菓

花ごころは茶保まきまきの汁あま
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

頂小鳩

又 鴿 斑鳩 鶉

葉まきまきまきまきの類わまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

六十六

石榴

花ごころは肉もまきまきの汁あま
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

八頭

葉まきまきまきの肉まきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき
まきまきまきまきまきまきまきまきまき

六十七

葛

葛も枕わさたの具と多作らま蔓ちの
どろ糸縋も竹ま草の汁はま草の
けして蔓せ入るべ

六十八

りくり

たごらんはらてふ草の汁よのふ
く糸縋も竹ま草の汁はま草の

鶺鴒

鶺鴒も多作らま蔓ちの汁はま草の
どろ糸縋も竹ま草の汁はま草の
けして蔓せ入るべ

文鳥

鶺鴒も多作らま蔓ちの汁はま草の
どろ糸縋も竹ま草の汁はま草の
けして蔓せ入るべ

六十九

水仙

金盞銀臺

水仙も多作らま蔓ちの汁はま草の
どろ糸縋も竹ま草の汁はま草の
けして蔓せ入るべ

七十

石竹

石竹も多作らま蔓ちの汁はま草の
どろ糸縋も竹ま草の汁はま草の
けして蔓せ入るべ

鶴鴒

黄鴨鴒

鶴鴒も多作らま蔓ちの汁はま草の
どろ糸縋も竹ま草の汁はま草の
けして蔓せ入るべ

比翼鳥

鸚

比翼鳥も多作らま蔓ちの汁はま草の
どろ糸縋も竹ま草の汁はま草の
けして蔓せ入るべ

七十一

桔梗

白紫二色あり地味黄淡合なり多
くまよひらんせりゆり中よりごらんまよ白
合祥ごらん付立葉糸細き若草の汁より
くはゆ去糖とトミ入極合しうご
付立葉もみひてつと又ごらんく付立
ごらんつと又多牛の具く付立
トひてはくこと皆仕かす日一

黒鶉

嘴は合葉土類向くごらんく色可ら候
等熱祥よひて後くすきひて仕ま

七十二

丁子草

花ごらんく付立葉糸細きひて付立より
くはゆ去糖若草の汁仕ま

尾長

鳥風

嘴は合葉土類向くごらんく色可ら候
等熱祥よひて後くすきひて仕ま
二すね尾あはれん候

尾長く〜傘〜とさくしむ丁子

逸志



参南之的



百神直卷五

〇〇
一七
七

上伊志郡高遠所
一四池上藏書



